

日本医学会分科会活動報告

一般社団法人日本生殖医学会
理事長 大須賀 穰

I. 医学および医療の水準の向上への貢献が日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会の独自の活動を以下に留意して記載をしてください。

a. 特に学術的に重要と考えられるもの

- ・生殖医療ガイドラインの作成・刊行
(2022年の生殖医療保険適応に向け2021年末発刊予定)
- ・Reproductive Medicine and Biology (RMB)の刊行(生殖医療に関連した original article, review 論文の刊行) (Impact Factor 3.239)
- ・日本生殖医学会雑誌の刊行(会告、地方部会抄録の掲載)
- ・学術奨励賞
- ・RMB 優秀論文賞:研究者に対する奨励とRMB誌の活性化
- ・Special Interest Group (SIG)による会員・患者・社会への情報発信、専門知識の集積とコンセンサス形成、若手育成
- ・「生殖医療の必修知識」の刊行
- ・生殖医療従事者資格制度による人材の育成(生殖医療専門医、生殖医療コーディネーター)
- ・生殖医療に関わる声明、提言の発出
- ・新型コロナウイルス感染症(COVID-19)と生殖医療に関する海外の動向の発信
- ・生殖医療 Q&A のホームページへの掲載による啓蒙活動
- ・チャットボットによる妊娠・出産・不妊の知識啓発を目的としたチャットボットの監修

b. 当該領域における国際的な役割

- ・海外の関連学会からの招聘や参加
European Society of Human Reproduction and Embryology
American Society for Reproductive Medicine
- ・役員派遣
IFFS (workshop, General Assembly, Board meeting)
ICMART(Board meeting, Contributors meeting, Board of Directors Teleconference)
- ・生殖医療に関わる非営利の国際機関に対するサポート(Contribution、Annual membership fee)
ICMART 3,000USD
IFFS 1,000USD

c. 活動からもたらされる社会的な意義

本会は人類および家畜と動物の生殖に関する基礎的および臨床的研究について、研究業績の発表、知識の交換、情報の提供などを行い、もって学術の発展と人類の福祉に寄与することを目的としております。昨今の生殖医学を取り巻く状況をみますと、生殖医学の研究環境の悪化と研究者人口の減少、生殖年齢人口と体外受精周期数の減少、新たな倫理問題の登場による臨床現場の混乱などこれまでにない問題が登場し、我々の発展の前に立ちほだかっています。先達が築いた本会の栄光を維持し、生殖医学を発展させ、なによりも我々の患者さんのために最良の医療を提供するために、本会では職種、勤務施設や形態、勤務地域、専門性などにおいて多様な背景の会員が知恵を出し合い、力を合わせることで、学会活動を通して生殖医学を大きく発展させ、我が国の生殖医療・学術の水準を高めていきます。

d. 学会運営上留意している点

課題は ①法人運営の安定化、②教育と生殖医療従事者資格制度の充実、③研究の促進、④国際化への対応、⑤社会とのつながりの強化、と存じます。法人運営に関しましては、学会として直轄の事務局を新たに持つことになりました。事務局機能の効率化を図るとともに財政面を安定させ、重要事項に対して弾力的かつ機敏に対応できる体制づくりを目指します。生殖医療従事者資格制度においては Web 講習を取り入れ、一般会員に対して有用で優れた Web 教育資料を作成したいと考えています。社会においては IT 化の流れが加速しています。この流れを積極的に取り入れて教育を中心として種々の学会活動に役立てたいと存じます。従来からの学術奨励制度は研究の促進に有効であり、これを引き続き維持していきたいと思えます。また、施設を超えた共同研究がますます必要になってきておりますが、本会の特徴を活かした会員間の連携を支援したいと考えています。学会としての新たな研究プロジェクトの立ち上げなども視野に入れて活動を進めてまいります。国際化としては引き続き諸外国の学会との有機的な連携を発展させることが重要です。その中で我が国からの発信力を強化するとともに、国際協力への貢献を通じて生殖医学の発展に寄与できればと考えています。社会とのつながりにおいては、我が国の生殖医療において責任ある団体として国民に対して適切な情報発信を行うとともに、積極的な社会へのアウトリーチ活動が重要です。社会とともに歩む本会に対し、国民からのより一層の理解と信頼を得ていきたいと考えています。

II. 日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会と他の分科会との連携による活動を記載してください。

・会員が研究発表、学術的交流を行った学会

(1) 第 68 回～第 72 回日本産科婦人科学会学術講演会

(2) 第 104 回～第 108 回日本泌尿器科学会学術講演会

・日本産科婦人科学会倫理委員会と本会倫理委員会の各委員の相互招聘と検討事項の意見交換